

nouvelle Fontaine

vol. 25

発行日 2009年10月25日
発行/岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Email:fontaine@sensyu.ne.jp
http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

岸和田城「八陣の庭」と 昭和を代表する作庭家「^{しげもり み れい}重森三玲」

専務理事 真下 豊光

■ 岸和田城「八陣の庭」

岸和田城は、昭和29年に再建されていますが、天守閣前の庭園は、それより1年前の昭和28年に作られています。岸和田市の公式ウェブサイト：祭都きしわだの風物百選によれば、「岸和田城天守閣前の庭園は、昭和28年の初頭に、当時の福本太郎市長が、岸和田城跡の将来の荒廃を恐れて、本丸に文化的な芸術の匂いの高い施設をつくろう、といわれたのが話の起りであった」と書かれています。

普通に考えれば、建物よりも先に庭を作るといふ発想はないと思います。先に庭ができていたため、天守閣の建設工事はかなりの制約を課せられ、苦勞したことが想像できます。また、戦後で財政状況が厳しい中、将来、城跡がおかしな方向で利用されないように、当時の市長の英断をもって文化施設の建設を決定したことは、文化というものの重要性を認識していた証であると思います。

■ 八陣の庭の特徴

八陣の庭は、昭和を代表する作庭家の故重森三玲氏によって作られた独特の石庭であり、八陣の名は、中国の三国志で有名な諸葛孔明の陣構えからとったものです。

この庭園の第一の特徴は、永遠の人々の鑑賞のために、天守からの俯瞰と更に上空からの俯瞰を意図した構成になっていることです。これは従来の庭園には全く見られない重森氏独自の創作によるものでした。

当時、重森氏が書かれた文献を見ると、岸和田市では堀の一部を埋めて児童遊園地を設ける案があったようです。しかし、それをすると、城跡を荒廃に導くことに繋がる恐れがあることから中止を申し入れ、むしろ本丸に庭園を作ることによって、城廓を永遠に保存することができることと進言をしています。そのことは、当時の人々のみの鑑賞ではなく、未来の人々の鑑賞も視野に入れて



岸和田城「八陣の庭」

(㊦)設計をするということでした。重森氏の文献に、「行く行くは、天守閣も出来るであろうし、天守閣が再建されることによって天守から俯瞰されることは当然であり、俯瞰されるほどなら、いっそのこと、今後は飛行機やヘリコプターの発達する時代となろうことであるから、上空から俯瞰的鑑賞を意図すべきであり、従来の庭園史にない次元を進めて作庭設計すべきである」と書かれています。

第二の特徴として、八陣の庭は、四方八方から眺められる「ぐるり正面」の庭になっていることです。石組みは、大将陣を中心として周りに天・地・風・雲・鳥・蛇・龍・虎の各陣を配置するとともに、砂紋を描いた白砂をもって石組みを囲み、海中の蓬莱山を立体的に表現しています。八つの陣ともそれぞれの陣を象徴した独立の構造を組みつつ、中央の大将陣や他の陣とも関連させています。また、一木一草もない枯山水になっています。

庭石は、八陣というテーマがある関係から探すのに苦労をされたようです。抽象的ながらテ

ーマを生かす形の石材を和歌の浦の沖ノ島で発見し、作者自ら現地において指揮し採石をしています。

第三の特徴は、従来の庭園に見られる鑑賞のみの庭園から一步前進させていることです。庭を野外劇場として能や舞踊に活用したり、野外展覧会としていけばな展もできることを念頭に入れたのみではなく、天守閣再建の折には図書館となることから館内のみの図書館ではなく、屋外読書もできることも考慮に入れた設計をしていることです。その実験として、昭和30年の10月に重森氏が主宰していた白東社同人の花展を開催するとともに、舞踊リサイタルも実施しています。

■ 重森三玲氏 (1896年～1975年) とは

故重森三玲氏は、昭和を代表する作庭家で日本庭園史の研究者でもあります。1896年に現在の岡山県に生まれ、日本美術学校で日本画を学んだのち、いけばなや茶道、建築

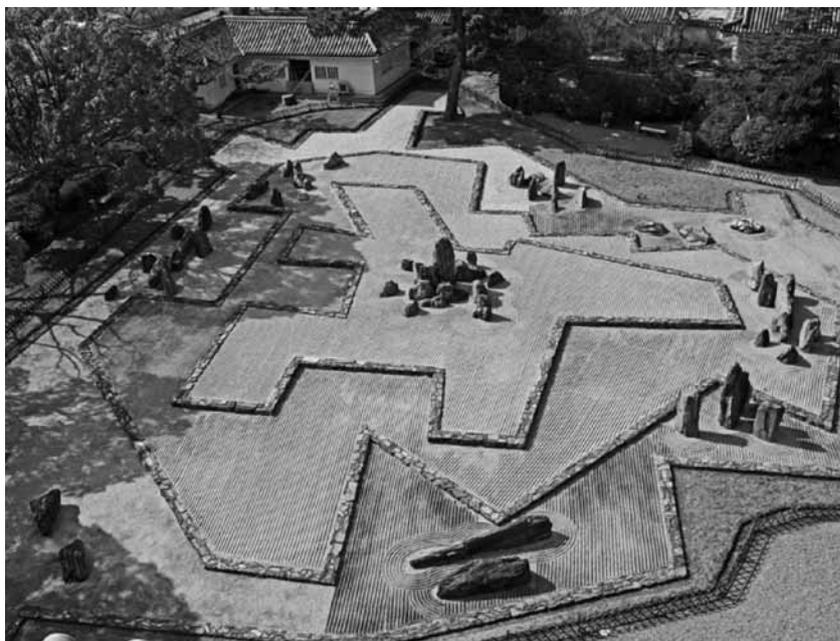
など、日本文化全般の研究及び庭園を独学で学びました。

1933年に勅使河原蒼風氏らといけばな界の革新を唱え、「新興いけばな宣言」を発表した人物としても知られています。1949年には、前衛いけばなの創作研究グループ「白東社」を主宰、前衛いけばな誌「いけばな芸術」を創刊しました。

また、1934年に来襲した室戸台風により、近畿の名園は多大な被害をこうむりました。各社寺には庭に関する資料が残されていないので、修復には困難が予想され、このままでは将来も庭園の研究が発展しないことを痛感した重森氏は、全国の庭園の実測調査を行う決意を固め、

1936年から実施しました。その成果として、1939年には「日本庭園史図鑑」26巻を出版し庭園史研究の基礎を築くとともに、1976年には「日本庭園史大系」全35巻を完成させるなど庭園史研究家としても多大な功績を残しました。

庭園の代表作は、八陣の庭を初めとして、京都の東福寺



岸和田城「八陣の庭」(天守閣より)

方丈庭園、光明院庭園、大徳寺山内瑞奉院庭園、松尾大社庭園があり、生涯に200あまりの作庭を手掛けました。

また、近年、重森氏を一躍有名にしたのは、女優の吉永小百合氏が起用されているシャープのテレビ「アクオス」のコマーシャルの場面に、重森氏の創作した庭が使用され、名前が紹介されたことでした。その他、朝日カルチャーセンターにおいても重森氏に関連する講座が実施されています。

■ 自泉会館で重森三玲作品展を開催

岸和田文化事業協会では、11月25日から29日まで重森氏作による庭園の作品展を自泉会館の展示室で実施します。八陣の庭をメインに約50点の写真を展示します。また、重森氏の作品を研究し、今回の写真を提供していただく庭園史研究家の中田勝康氏の講演会も11月28日に開催します。皆様の入場をお待ちしております。

Cultural Hot Spot In Kishiwada

子どもと一緒にほっとできる
「子育て文化」の発信地
「ころころはうす」



9月1日オープンした「ころころはうす」

南海本線岸和田駅の南口から東へ徒歩約2分。岸和田駅前郵便局の隣、LPガスの販売などを業務とする「(株)オクジ」の店舗跡に9月1日オープンした「ころころはうす」。子どもが生まれても横や縦のつながりが希薄になり、孤立しやすい現代社会の中で、みんなが一緒に見守りながら、さまざまな形で子育てをしていく場所を作りたいという思いでスタートした。そんな「触れ合いながら一緒に学び、成長するスペース」の詳しい内容を、事務作業を担当している岸和田おやこ劇場のおじま小島恵事務局長に聞いた。

生の子育て情報を聞いて

大人も成長できる場所づくり

「オクジさんが移転するとき、社長の奥様が事務所跡を人の集まる場所にしたいと考えておられて、最初は喫茶店か何かをお考えになっていたらしいんですけど、そこに松本先生（当協会会長）の勧めがあって、子どもの集まる形に決まったんです」と小島さん。「松本先生の呼びかけで集まった岸和田おやこ劇場と、乳幼児に手遊びの段階から英語を親しんでほしいと考えている『Jenny's English』の高橋先生、子どもと絵本の読み聞かせをしたり手遊びしたり、昔ながらの遊びを子どもたちとしていきたいと思っていた『わくわくライブ』という方と、新しい自主学习グループの4組で始めました」。

今、子育てを開始したお母さんやお父さんたちはネットを使ったり、専門書を読んだりして情報を集めている。しかし、なかなか家から外に出る機会も場所も少な



イベントの様子

く、子ども同士のちょっとしたいざこざや、その対処法などの生情報は得られにくく、育児に関してプレッシャーさえ与えてしまっている状況だ。

「そんな親御さんたちにゆとりのある気持ちを持ってもらい、家から一歩外にできるきっかけになりたいです。そして、子どもたちと一緒に遊んだり、工作したり、絵本を読んだりする中で、大人もいろんな人の話を聞いて子育ての事や社会の事を学んでいき、成長する場所として成り立たせたいと考えています」。

気軽に訪ねておしゃべりができ

その上、本物の文化と触れ合える

将来的には人形劇や音楽など、テレビでは体験できない本物の文化と直接触れ合うことができる場所であり続け、同じ目的を持って参加するメンバーを増やし、土曜や日曜でもオープンを可能にしたいという意向の小島さん。「ここで遊んだ子どもたちが10年後、20年後には、逆に協力してくれたり、運営してくれる立場になってくれるとうれしいですね」と夢を語り、「もっと多くの人が集まるアイデアがあれば、是非、聞かせてください」と話す。

現在、講座などが開かれる場合だけ事前の申し込みが必要で、講座の内容によっては参加費や材料費を支払わなければいけないが、基本的に普段の利用に関しては無料でメンバー登録も不要。つまり、開業時間（当面は月火木金の10時から15時まで）なら気軽に訪ねる事ができ、子どもと一緒に時間を過ごし、スタッフや同じ境遇の人たちと会話することも可能になっている。

近所に相談できる人がいなくて一人悩んでいる人、時代や環境に即した情報や知識を得たい人、本物の「子育て文化」に触れたい人など、子どもたちのためだけでなく、自分も親として成長したい人は一度、訪ねてみることをお勧めする。

問合せ先

ころころはうす

〒596-0076 岸和田市野田町1-8-8

電話 072-437-3456

開業 10時～15時(月火木金)



洋画家

大久保 作次郎



市場の魚店 (1960年 日本芸術員賞作品)

大久保作次郎の作品を見ると、暖かな光と愛情にあふれる画面に心の和む思いに満たされる。その作風は温和で、それは作家の人格と生育課程で育まれたものと思われる。

大久保作次郎は、明治23年(1890年)11月24日、泉北郡山滝村(現岸和田市内畑町)に生まれ、難波駅の近くの氏原家に育つ。精華小学校4年を終え、鰻谷の高等小学校に通ったが、中学は岸和田中学校に入学し3年まで在学。この間、体を鍛えるために盛んに水泳を習得している。3年のとき、母の逝去により大阪市に戻り、桃山中学校に入学している。

大正4年、船場で綿布問屋を営む叔父に跡継ぎがないため、懇望されて「洋画をやらせてもらう」条件つきで大久保家を継ぎ、旧姓氏原より大久保に改姓する。

作次郎の中学時代に大阪で大博覧会が開かれ、そのときに初めて洋画を見た。これが作次郎の洋画との出会いであるが非常に強い印象を受けたようである。

明治40年に文展が開かれ、そこで洋画は日本画とようやく肩を並べ、そしてめざましい興隆期を迎える。この洋画の興隆期に、作次郎は明治43年東京美術学校に入学し、黒田清輝、藤島武二、和田美佐らに師事している。

在学時代から印象派風な制作を行い、大正5年に「庭の木蔭」、翌6年「三月の日」、続く7年に「とげ」と3年連続して文展で特選を得、翌年からは無鑑査推薦を受けている。

大正11年、フランスに留学しボッチェリーに傾倒した。そしてルーブル美術館にて3年半をかけ模写している。この時期パリの画壇では既にマティス、ピカソと多くの優れた画家たちが存在し、変化の中にあった。しかし現地の画壇の情勢に触れ、しばらくは作品に変化をあらわすが、既に熟達した印象派風の表現だけに留まらず、表現に深みを加えて、自己本来の作風に戻り、終生それを追求した。

昭和2年帰国。大正13年に結成された槐樹社に参加するも昭和6年解散。帰国の年より帝展の審査員を3年、昭和22年より数度日展の審査員を務める。昭和30年、和田三造、川島理一郎、吉村芳松、柚木久太氏らと「新世紀美術協会」を結成。昭和33日日展評議員、翌34年「市場の魚店」で日本芸術院賞を受賞、昭和38年には日本芸術院会員就任。昭和48年83歳で没するまで、ひたむきに自らの画業の研鑽に励んだ。

平成4年岸和田市制70周年記念事業として、岸和田市「ゆかりの巨匠展」が開催され、洋画・大久保作次郎、日本画・小倉遊亀、陶芸・加守田章二、の三氏の作品展が開催された。大久保作次郎の作品は17点が展示された。この時作次郎の夫人大久保婦久子氏(皮革工芸家・芸術院会員、故人)より、当市へ「ルパシューズ」「漁婦」の2作品が寄贈された。

参考文献:

「大久保作次郎画集」、

岸和田市制70周年記念事業「ゆかりの巨匠展」図録

岸和田文化事業協会 理事さん リレーエッセイ

子ども達にとっての音楽



理事
堀 多恵



子ども達にピアノを教え始めて?十年……最近、子ども達にとっての音楽とは、どのような存在であるべきなのかという事をよく考える。

日本の音楽教育は本当に教育であり、他の勉強と同じように、目に見える上達度や達成感を求められている。そして、それが顕著に表れない場合、才能がないと判断し、努力不足を叱責し、失望し、やめていかれる方がたくさん居られる。もちろん目的を持っている場合、多大な努力を必要とするが、果たして、音楽とはそのようなものなのだろうか。私達の周りには音が溢れている。自然界にも都会にも田舎にもキッチンまでにも……。練習をしていない時の子ども達の遊びの中に、大人の私達の気付かないリズムや音が溢れていて、子ども達は知らない間に、実は私達大人以上に複雑なリズムや音を感じ、聴きとっているという事に気付かなければならない。そして、私達が子ども達にしてあげられることは、練習しない事を叱責し、子ども達に対して失望するのではなく、子ども達が柔軟な頭で気付かないうちに溢れる才能を発揮しようとしている、その瞬間を察知し、その才能を気付かせ、褒めてあげる事ではないだろうかと思う。

私は、音楽が言葉以上に心を癒し、表現できるものであり、人間にとって一番身近な存在であると信じて教え、また、自分自身も演奏している。だから、子ども達にとっての音楽が辛く苦しいものではなく、笑顔を導き出せるものであって欲しいと願っている。

娘が幼稚園に入園した頃、実家の母の「大正琴の先生が、自宅へ出張授業に来られなくなったので、代わりに梅田教室まで習いに行き、私に教えてくれないか」という言葉が大正琴と私の出会いの始まりです。頼まれたら断ることが苦手な私は「大正琴?どんな琴?」と少々不安でしたが、母の大正琴を提げて教室に習いに行く事になりました。その後、教室の場所や教えてくださった先生は変わりましたが、私自身、大正琴の指導認定を取得し、学生時代からピアノを子ども達に教えていたこともあり、すぐに公民館等で大正琴を指導するようになりましたが、初めは戸惑う事が多くありました。生徒さんは皆さん人生の先輩で、母より年上の方もいたり、個人差も大きく、個人指導をすると「こわい」という反応、合奏に入るとパニックに!「どうして、こんなに一生懸命しているのに」と家で掃除機を掛けながら涙を流し、洗濯機の回るのを見ながら溜息を付いたり、気持ちが落ち込む事もありましたが、少しずつ心の繋がりを持つ事ができ、個人差を尊重し、大切に一曲ずつ仕上げていくしんどさ、楽しさや喜びや感動を共有し、地域の文化祭やボランティア演奏、コンサートや大会に出演し、5周年・10周年・15周年の発表会を経て、来年には20周年の発表会を予定しています。

たかが大正琴、されど大正琴、色々な出会いを頂きました。平成21年度5月定時総会には自泉会館で念願の大正琴演奏ができ、私も理事の一員として参加させて頂くことになり、自泉会館とのご縁がますます深くなり、また新たな出会いを期待しています。これからも大正琴の縁を大切に、大正琴の魅力をたくさんの人に伝えて行きたいと思っています。

大正琴と私



理事
橋野 澄子

歴史再発見 ご存知ですか

vol.2

副会長 行 龍男

『世界に一番近い城下町』というキャッチフレーズのもと岸和田市が、世界の国々の人々と交流を目指しています。さらに、交流都市・姉妹都市として、中国広東省汕頭市・上海市揚浦区、韓国ソウル特別市登浦区、アメリカ カリフォルニア州サウスサンフランシスコ市の4地域と交流を深めています。岸和田市が歴史的に交流があった地域や人物があったのでしょうか。今回は、山手地域の伝承を紹介しましょう。

1】神於寺と新羅の神

岸和田市神於町

神於寺が伝える神於寺縁起絵巻によると、神於山の地主が、役行者にこの山を、仏法の地にして欲しいと依頼しました。そこで、行者が、新羅に渡り、神人(宝勝権現)に依頼します。下図の絵巻は、神人が神於に飛来し行者と対面している場面である。

その後、天武天皇の援助もあり、伽藍の整った寺として栄えます。しかし、行者が、諫言により伊豆大島に流罪になったあと残念ながら廃れてしまう。

新羅の神人(宝勝権現)は、仏法が廃れ、寺が荒廃していることに警鐘を鳴らすため、舟を転覆させたり、落馬を頻繁に起こしたりして人々を困らせました。



神於山寺縁起絵巻

現在の神於寺(神於町)



2】百済の僧 光忍

岸和田市上白原町



神於山絵図 天保7年 岸和田市教育委員会所蔵

百済の僧光忍が和泉の国を訪れたとき、惨憺たる光景を目の当たりにし、また、土地の人々から、神於の寺を復興して欲しいと懇願されて、光忍上人は、神於山に



合掌還化する光忍上人

登り、寺院再興に取り組みました。光仁天皇の勅宣により、寺が再興になり、さらに、灯油仏聖供料として岸和田荘が寄進された。その後、弘法大師もこの寺に参り、納経礼拝したと伝えられる。

いずれにしても、河合・神於・白原という地域は古くから開け、外国との関係が深かったことが伺われます。

登り、寺院再興に取り組みました。光仁天皇の勅宣により、寺が再興になり、さらに、灯油仏聖供料として岸和田荘が寄進された。



光忍上人の墓

朝鮮半島と岸和田の関わりは、古くは、神於山から出土した「流水文銅鐸」の成分に、朝鮮半島産の鉛が含まれていたり、神於寺伝説に関わる事例や、近世の江戸時代における「朝鮮通信使」が来日したのは、合計12回であるが、岸和田藩の岡部氏が接待役を務めたのが7回もあったと言うことです。古代より岸和田と朝鮮半島との繋がりが深かったことを物語っていると思います。

岸和田ゆかりのソリストを集めてのコンサート

岸多恵 (ピアノ)
小櫻尚子 (ピアノ)
池上尚里 (ヴァイオリン)
角野芳子 (ソプラノ)
堺靖師 (チェロ)

<日 時> 2009年6月26日(金)午後7時～
 <場 所> 自泉会館ホール
 <出演者>
 ヴァイオリン：池上尚里 (伴奏 真壁泰江)
 ソプラノ：角野芳子 (伴奏 安枝まなみ)
 チェロ：堺靖師 (伴奏 堺多恵)
 ピアノ(2台)：堺多恵、小櫻尚子
 司会：加藤久美子

<内 容>
 池上さんは第二部で「シャコンヌ」(ヴィタリー)を演奏してくれました。シャコンヌと言えばバッハを連想する方も多いと思いますが、難曲を見事に紹介して下さいました。
 角野さんは、「華やかな宴」(アーン)、「あなたが好き」(サティ)で観衆をパリに連れて行って下さいました。
 堺靖師さんのチェロは、生のチェロを近くで聞く機会を下さり、「白鳥」(サン・サーンス)ではチェロの持つ豊かな響きを十分に私達に聞かせて下さいました。
 堺多恵さん、小櫻さんは2台のためのピアノ曲を披露して下さいました。特に唱歌の四季では日本の四季の唱歌を現代風にアレンジし表現豊かな演奏をして下さいました。
 今回演奏して頂きました皆様は岸和田市の音楽文化活動の中核の方々です。お忙しいと思いますが、ソリストとして、後進の指導者として、益々のご活躍をお願いしたいと思います。

第15回 自泉フレッシュコンサート



<日 時> 2009年8月8日(土)午後6時半～
 <場 所> 自泉会館ホール
 <出演者>
 ピアノ：寺田江里子
 ソプラノ：西川寛子 (伴奏 藤里香世)
 クラリネット：森田美穂 (伴奏 和泉真子)
 司会：角野芳子

<内 容>
 寺田さんは「楽興の時Op.16-3,16-4」(ラフマニノフ)と「幻想ポロネーズ変イ長調Op.61」(ショパン)を演奏していただきました。練習をよくされ完成度の高い演奏であったと思います。
 西川さんは、「野ばら」(シューベルト)、「からたちの花」(山田耕作)など、世界の花シリーズを歌われました。さらにオペレッタ メリー・ウィドー (レハール)、そして、会場の皆様と一緒にメリー・ウィドー・ワルツを大合唱いたしました。最後にオペレッタ「チャルダシユ公爵夫人」(カールマン)より「ハイヤ、わが心のふるさとよ」を歌って下さいました。
 森田さんは、「ソナタK13」(スカルラッチェ)、「クラリネットコンチェルト第2番変ホ長調Op.74 第1楽章」(ウエーバー)を素晴らしい音で演奏して下さいました。フランス留学の直前の演奏で大変だったと思います。フランスで落ち着きましたらフランスの文化情報や森田さんの近況などを岸和田文化事業協会まで是非連絡を頂ければと思います。
 なお、今回新しい試みとして休憩に簡単な飲み物とスナックを無料で用意させていただきました。来場者からは喜んで頂きました反面、当方のサービス方法にもひと工夫が必要とのご意見もあり今後の改善ポイントとさせて頂きます。

岸和田文化事業協会の事業 Information

岸和田城「八陣の庭」作庭家 重森三玲の作品展

日時 平成21年11月25日(水)～11月29日(日)
午前10時～午後5時

場所 岸和田市立自泉会館展示室

入場料 無料



重森三玲に関する講演会と「八陣の庭」見学会

日時 平成21年11月28日(土)午後2時～4時(講演は1時間)
場所 岸和田市自泉会館ホール及び岸和田城八陣の庭
講師 庭園史研究家 中田勝康氏
定員 100名
入場料 無料 (10月27日(火)より岸和田文化事業協会事務局
(TEL/FAX 072-437-3801)にて受付、先着順)

岸和田市共催事業

ダイナマイトしゃかりきサ～カス アカペラ クリスマスコンサート

日時 平成21年12月12日(土)
午後2時開演・午後6時30分開演(2回公演)

場所 岸和田市立自泉会館ホール

出演者 ダイナマイトしゃかりきサ～カス

入場料 一般前売大人 2,000円 会員前売大人 1,500円
一般前売親子券 2,500円 会員前売親子券 2,000円
前売子ども 1,000円



※当日は300円増
※親子券は大人1名+子ども1名となります。
(子ども=4才～小学生)

第17回自泉フレッシュコンサート ～名曲を訪ねて～

日時 平成21年12月20日(日) 午後2時開演
場所 岸和田市立自泉会館ホール
出演者 柴田誠巳(ピアノ)・仲山知美(ピアノ)・堀内望未(ソプラノ)
入場料 一般前売1,200円 会員前売1,000円 (当日200円増)



第18回自泉フレッシュコンサート ～春を待つコンサート～

日時 平成22年1月10日(日) 午後2時開演
場所 岸和田市立自泉会館ホール
出演者 小幡文香(ピアノ)・樋口藍(フルート)・西口侑希(ピアノ)
入場料 一般前売1,200円 会員前売1,000円 (当日200円増)



岸和田市共催事業

「紙ふうせん」 ハートフルコンサート

日時 平成22年1月30日(土)

午後2時開演・午後7時開演

(2回公演)

場所 岸和田市立自泉会館ホール

出演者 紙ふうせん

入場料 一般前売3,500円
会員前売3,000円 (当日300円増)

※手話コーラス付

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

文化情報

岸和田市市展60周年記念 審査員合同作品展

日時 平成21年10月31日(土)～11月3日(祝・火)
午前10時～午後5時(最終日は午後1時30分まで)
俳画・書の審査員による作品制作会を開催
平成21年11月1日(日)午後1時～
場所 岸和田市立文化会館(マドカホール)展示場
入場料 無料

平成21年度(平成21年4月～平成22年3月)

会員募集

年会費(入会費不要)

個人会員(1口) 2,000円 団体会員(1口) 5,000円
家族会員(1口) 1,000円 法人会員(1口) 10,000円
(個人会員の同居家族) 特別会員(1口) 50,000円

入会方法

協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。
郵便振込の場合は
口座番号 00970-9-28145
加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで。
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

nouvelle Fontaine vol.25

発行:岸和田文化事業協会
発行日:2009年10月25日

◆事務局
〒596-0073
岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員 和田正則・紙野陽子・歯黒猛夫
藤田保平・本郷元子



編集後記...

芸術の秋、真っ只中です。私たちの周りには、舞踊・音楽・演劇・陶芸・絵画・書など豊かな芸術が満ち溢れています。皆さんはどんな芸術に親しんでおられるでしょうか。この秋は、今まで興味を持ったことのない分野を覗いてみるのは如何ですか?はっとするような発見や感動に出会えるかもしれません。自泉会館でもたくさんの催しが計画されています。「ふぉんてーぬ」を参考に、澄み渡った空とお城の周りの秋を楽しみながら、ぜひ自泉会館に足を運んでみてください。(紙野)